

越谷らしさについて

		越谷市の現				越谷市をこんなまちにしたい (理想像)			
越谷の良 いとこ ろ	長所 大々	自然が多 公園が整備され ている 公園が多い 緑(屋敷林) が多い 川が多い 川が川と田んぼが 多い	中核都市 シブい 紙に行き くまら 交通の利便性 が良い 鉄道駅交差点 駅が多い 東京に近い	地域自治会々々 統一 朝参 ゆるゆる 政策に環境対策 高齢者施設 の 施設(公的) 大きなホールが ある	サークルが多い テーマグループ 多 地域力 がある 都市化が 進んでいる 人口が 伸びている 歴史がある 50年	越谷市をこんなまちにしたい (理想像)			
	短所 改善したいところ	地震対策が遅 い 住宅地の値上がり 急 道路が未整備 道路整備をした のが良い箇所が 交通が不便 水害が多い 720,7	自然が 減っている 特産物が ない 炬燵、歩道の メンテナンスが悪い 高層は 少くない	市→自治会→住民 共通の方向性 があるよ 高齢化が 増えている 越谷駅周辺が さびしい 芦屋市の 田園都市の (100坪 50坪)	古く深い 歴史 犯罪が多い 治安が悪い 各団体の指導者 養成 確かにアパレル は多いが 未開拓のところが 多い	市政に少し 一歩引く 文化人が少 ない 若者の声か 行政に届き にくい 若い人の参加 が少ない 地域住民の火 の意識が希薄 高齢者が多く 若い人が少ない	ふるさとのまち まち 水子産も手紙 も集まる町 自分たちがい い (昭和半ばの時代) 死ぬまで住みたい まち このまち まち 住民自治を 考え市民 都心に近づく 生かした 若者が参加 出来る町 公共の施設を 計画的に建設 環境をやり 環境の整備 に充てる 参画出来る 町(男 若夫)	ふるさとのまち まち 水子産も手紙 も集まる町 自分たちがい い (昭和半ばの時代) 死ぬまで住みたい まち このまち まち 住民自治を 考え市民 都心に近づく 生かした 若者が参加 出来る町 公共の施設を 計画的に建設 環境をやり 環境の整備 に充てる 参画出来る 町(男 若夫)	

4 班

越谷らしさについて

第4回自治基本条例に関する勉強会

千回台駅への駅前
周辺に屋根をつける

	越谷市の現在			越谷市をこんなまちにしたい (理想像)		
越谷の 良いところ	長所 大切にしたいところ ゴミの分別が 少ない。	道路が整備 されている。 交通の便が あり。	乳幼児の子供が 多い。 地域の人の 交流が 多い。	市民参画に 行政の熱心	高齢者の新しい住みか 町 安心して暮らせる	おまわりさんが増し まちを歩き人との 小あひさ
	公共の施設が 多い。	自然の景観 (獨北川沿いの調和) 公共施設が 立派でキレイ。	団体の活動が さかんと思う。 市民ごとの活動が	印象的に 車を無 市政の よさについて	安全安心な街であること 推進が健全な 成長を促す環境の街 であること。	情報・制度が わかりやすい。
越谷の 悪いところ	市民会館の前の 公衆トイレが きれい。	医療機関が 多い (安心)	地域(地縁関係) の活動が活発	人口大切 するまち	年をとっても ずいぶん続け られるまちにしたい	市民負担率の 少ない市 と比べて市民 参加の 少ない市
	短所 改善したいところ 公園が 少ない	近くにスーパーが ない (食品衣類) 安心して子育てできる 環境が必要	「女性」は 専業主婦が 多いと思 っている人の割合が 多い。	何故2番目の ことと 取組むのか?	若者の 参画の 機会を 創出	共生の 安全安心 情報の 格差
越谷の 悪いところ	千回台東は 植木が 少ないため 暑い。	明るい街路 (照明)	清潔な 路地(たす の)	施策等を策定 の際、当時 者連が わからない。	市長本人との 話し合いが ほしい	自然を よやす 自然環境を よめた町作り
	他市より 行政が ゆるい。	道路の 工事 が多すぎる	ゴミの 出し方が 悪い (市民の 自覚 不足)	新旧 住民の 区別が 大きい	行政に 頼り すぎ	自然環境 と 調和
	歩行者の 不便・危険					災害に 強い町

バリアフリーは、
車いす利用者だけでなく、
様々な身体の不具合を抱えている人にも必要。

みんなが安心して暮らせる
まちづくり。いろいろな
人との交流の場を
認め合い、話し合い、
取り組む。

さまざまな人達
互いの存在を
わか

若者の
高齢
者の
交流の
場を
創出

自分の
言いたい
ことを
他人の
言いたい
ことを
聞き
合わせる

ふいふい
豊か
な街
である